令和4年度 産業標準化推進事業委託費 (戦略的国際標準化加速事業:我が国の国際標準化戦略を強化するための体制構築) 消費者への標準化に関する普及啓発活動 実施報告

(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会標準化事業実行委員会(標準化委員会受託事業部会)

令和4年度の「産業標準化推進事業委託費(戦略的国際標準化加速事業:我が国の国際標準化戦略を強化するための体制構築)消費者への標準化に関する普及啓発活動」では、8回の標準化セミナーと3グループによる標準化のタネ探し(消費者視点の標準化提案)等を実施した。以下、各普及啓発活動の成果について報告する。

I. 標準化セミナー

- 1. 標準化セミナー(弘前大学) 主催:東北支部
- 2. 標準化セミナー(東日本支部) 主催: 東日本支部
- 3. 標準化セミナー(中部大学・前期) 主催: 中部支部
- 4. 標準化セミナー(中部大学・後期) 主催:中部支部
- 5. 標準化セミナー(鳴門教育大学) 主催:西日本支部
- 6. 標準化セミナー(中国支部) 主催:中国支部
- 7. 標準化推進リーダー養成講座 I 主催:九州支部
- 8. 標準化推進リーダー養成講座 II 主催:九州支部

II. 標準化のタネ探し(消費者視点の標準化提案)

- 1. 東北支部 ネオジム磁石
- 2. 西日本支部 古着店頭回収システムの標準化
- 3. 中国支部 固定電話の防犯機能の標準化

III. その他

- 1. 内部勉強会
- 2. 標準化啓発動画の作成

I. 標準化セミナー

1. 標準化セミナー(弘前大学) 主催:東北支部

対 象: 大学生(弘前大学)

日 時: 2022年7月14日(木) 10:20~11:50

開催場所: 弘前大学総合教育棟 305 教室(対面)

参加者: 学生33名、教授1名

<プログラム>

テーマ:「消費者志向経営」、「消費者市民社会」から考える標準化(JIS 規格)

講義 (35分)

ワークショップ (45分)

質疑応答・コメント記入(10分)

2. 標準化セミナー(東日本支部) 主催: 東日本支部

対 象: 会員・一般・大学生

日 時: 2022年12月18日(日)14:00~16:15

方 法: オンライン

参加者: 29名(会員25名、一般2名、学生2名)

<プログラム>

①開会挨拶 東日本支部 支部長

- ②基調講演「消費者のための標準化 ~消費者保護の観点から~」(30分)日本規格協会 阿部裕治氏
- ③発表「東日本標準化チーム活動報告」(15分) 東日本標準化チーム
- ④グループワーク(5グループ)(50分)

⑤講評 淑徳大学 コミュニティ政策学部 日野勝吾准教授

日本規格協会 阿部裕治氏

⑥閉会挨拶 東日本支部 副支部長

3. 標準化セミナー(中部大学・前期) 主催: 中部支部

対 象: 大学生(中部大学経営情報学部 学部3年生中心)

日 時:(前半) 2022 年 6 月 30 日(木) 11:15 ~ 12:45 (90分)

(後半) 2022 年 7 月 7 日 (木) 11:15 ~ 12:45 (90分)

実施方法 : オンライン

参加者: 中部大学経営情報学部『環境マネジメント』カリキュラム受講者

学生 3 年生中心 109 名 講師 2 名 会員 7 名 参加者計 118 名

<プログラム>

◆前半

第1部…講義(30分)

- ①「消費者と標準化」の関係、「消費者視点の標準化のたね探し」講師: 伊藤教授(中部大学)
- ②「名古屋市におけるエシカル消費の普及・啓発事業について」講師: 丹羽主査(名古屋市消費生活課)
- ③「もっと安全で便利な暮らしについて考えよう」講師: 西田 (NACS 中部)
- 第2部…グループワーク (60分) <28 グループに分かれて>
 - ①グループワーク……ファシリテーター(NACS 会員)も参加
 - ②標準化のタネ探しと課題解決策のグループミーティング

◆後半

第1部…グループワーク (15分)

- ①本日のセミナーについて・セミナーの説明(伊藤教授・NACS)
- ②グループワークにてタネ探しワークシートのブラッシュアップ
- ③グループ発表用ワークシートの完成
- 第2部…グループ発表会 (75分)
 - ①グループ代表発表……26のグループ代表が順次発表(各2分以内)
 - ②発表へのコメント……コメンテーター(NACS 会員)がコメント
 - ③発表内容への評価……コメンテーターと受講者全員で評価
 - ④全体講評……伊藤教授(中部大学)・丹羽主査(名古屋市消費生活課)

4. 標準化セミナー(中部大学・後期) 主催:中部支部

対 象: 大学生(中部大学経営情報学部 学部1年生中心)

日 時: (前半) 2022 年 12 月 13 日 (木) 15:20 ~ 16:50 (90分)

(後半) 2022 年 12 月 20 日 (木) 15:20 ~ 16:50 (90分)

方 法: オンライン

参加者: 中部大学 経営情報学部 『経営環境』 カリキュラム受講者

学生 1 年生中心 126 名 講師 2 名 会員 8 名 参加者計 136 名

<プログラム>

◆前半

第1部…講義(25分)

「消費者と標準化」の関係、「消費者視点の標準化のたね探し」講師:伊藤教授(中部大学)「名古屋市におけるエシカル消費の普及・啓発事業について」講師:名古屋市消費生活課「もっと安全で便利な暮らしについて考えよう」講師:西田(NACS 中部)

第2部…グループワーク (65分) <27 グループに分かれて>

グループワーク……ファシリテーター(NACS 会員)も参加標準化のタネ探しと課題解決策のグループミーティング

◆後半

第1部…グループ発表準備 (8分)

本日のセミナーについて・セミナーの説明(伊藤教授・NACS) グループワークにてタネ探しワークシートのブラッシュアップ グループ発表用ワークシートの完成・発表者の決定

第2部…グループ発表会 (82分)

グループ代表発表……27のグループ代表が順次発表(各2分以内)

発表へのコメント……コメンテーター(NACS 会員)がコメント

発表内容への評価……コメンテーターと受講者全員で評価

全体講評……伊藤教授 (中部大学)・名古屋市消費生活課

5. 標準化セミナー(鳴門教育大学) 主催:西日本支部

対 象: 大学生(鳴門教育大学)

日 時: 2022年11月9日(水)10:40~12:10

場 所: 鳴門教育大学

参加者: 学生9名、NACS参加者5名(兵庫1名、徳島4名)

<プログラム>

1.「子どもの安全と標準化のたね」について(30分)

講師: NACS会員 松井美穂

2.グループ討議:「標準化のたね」を探してみよう(60分)

ワークショップ形式で3名×3グループ

6. 標準化セミナー(中国支部) 主催:中国支部

対 象: 会員・一般

日 時: 2022年9月3日(土) 13:30~15:30

方 法: オンライン

参加者: 11 名

内訳:参加者8名(岡山2名(会員)、広島6名(うち2名非会員))、事務局3名

<プログラム>

開会挨拶:NACS中国支部長 田中 美惠子

第1部 「もっと安全で便利な暮らしについて考えよう!」NACS 中国支部 木場環

「防犯電話の調査について」NACS 中国支部 徳本健一

第2部 全員による意見交換「『標準化のタネ』を探そう」(50分)

7. 標準化推進リーダー養成講座 | 主催:九州支部

対 象: 会員(九州支部)

日 時: 2022 年 9 月 25 日 (日) 10:30~15:30 方 法: 西部ガスショールーム ヒナタ福岡

参加者: 19名

<プログラム>

◆午前

本日の目標の共有(10分) 開会挨拶・オリエンテーション「気づきのシート」配布

標準化の基本を学ぶ(30分) 「あったらいいな!身近にある標準化のタネ」

講師:NACS 西日本支部 丸山明夫

タネ探しを体験する (60分) グループワーク 3~4人でグループ分け

(20分) グループ発表

◆午後

タネの調査活動や他支部での活動について知る(40分)「標準化取り組み事例の紹介」

講師:NACS 西日本支部 丸山明夫

活動の疑問点について解消するとともに今後の活動の仕方について意見交換する(40分)

8. 標準化推進リーダー養成講座Ⅱ 主催:九州支部

対 象: 会員(全国)

日 時: 2023年1月29日(日)10:00~12:00

方 法: オンライン

参加者: 35名

<プログラム>

第1部「消費者による消費者のための標準化 ~消費者保護の観点から~」(50分)

(一財) 日本規格協会 阿部裕治氏

第2部「今日からあなたもファシリテーター ~NACS標準化推進リーダーの心得~」(45分)

NACS 標準化委員会 釘宮悦子

Ⅱ、標準化のタネ探し(消費者視点の標準化提案)

1. 東北支部

テーマ:ネオジム磁石

<テーマ選定の経緯>

- ・2022 年度、市場調査や公的機関(東京都、国民生活センター、経済産業省、消費者庁)が公表した啓発資料及び ISO8124、CPSC(米国消費者製品安全委員会)始め海外の規格・基準を調べた結果、海外ではすでに強制法として規制されていることが分かった。しかし、国内では重篤な事故が継続して発生しておりながら玩具業界以外規制されていないため、海外同様早期の規格化が必要と考えた。
- ・2022 年 3 月 24 日には、消費者安全委員会が公表した「ネオジム磁石製のマグネットセットによる子どもの誤飲事故」(注:マグネットセットとはマグネットボール、パズル等の総称)の調査報告によって、発生防止のため法令による規制を検討するようとの意見が出されている。
- ・マグネットボール以外マグネットパズルでも同様の誤飲事故が起こっており、2022年2月17日 には国民生活センターから「マグネットパズルの破損に注意」と注意喚起が出されている
- ・また、市場調査の結果、文具や日用品でも小型で強力な磁束指数のネオジム磁石製品が市販されていることから、「ネオジム磁石」を対象に幅を広げ強制法にもとづく規制が必要と考え、昨年に引き続き取り組むことにした。

<調査概要>

- ・消費者安全調査委員会の報告書を参考にするとともに、インターネットを活用して ISO、CPSC (米国消費者製品安全委員会) 以外の海外の規格・基準について調べる。
- ・強制法としては消費生活用製品安全法(PSC)が該当するが、PSCを制定する場合の具体的技術基準を整理する。
- ・ PSC の技術基準と JIS 規格、SG 基準、ST(玩具)基準及びその他該当する規格・基準の関係、位置づけを整理する。

<結論>

ネオジム磁石の普及により、磁石製品のリスクは大きくなっている。現在、磁石製品には強制的な規制はない。よって、リスクの大きい磁石製品に対し JIS による技術基準を策定し、法令によって規制する必要があると考える。

<理由>

・消費者安全委員会から経済産業大臣あてに法令で規制するよう検討を求める意見が出され、経済産業省の検討委員会「消費生活用製品の安全確保に向けた検討会」でもテーマに取り上げ、2023年6月頃には論点整理(法制化されると思われる)される予定になっている。強制法で規制する際には

技術基準が必要になる。その際の技術基準として、ISO8124-1 及び海外の規制以上の内容をベースにした JIS 規格を制定し採択することを提案する。また、磁石の誤飲事故は重篤な例もあり、国民生活センター、経済産業省等からも注意喚起がなされているが消費者にはあまり伝わっていない。規格化されることにより危険な製品の流通が規制されるとともに、消費者にはリスク情報に接する機会も増え認識が広がると思われる。

- ・法制化されれば海外から高磁束指数のリスクの大きい製品の流入が規制される(14歳以上を対象に した製品であれば販売できるのでリスク「0」にはならない)。また、規格化されれば、消費者およ び事業者が磁石におけるスクの大きさを知る機会が増える。
- ・子ども向けの製品で率先垂範して規格・基準を遵守することは、消費者から企業の社会的価値が認められ評価されることになる。また、事故防止に努めるのは当然だが、法令を遵守することにより、万が一、事故が起こった場合の被害者対応も進めやすくなる。

<今後の方針>

消費生活用製品安全法の技術基準と JIS 規格、SG 基準、ST 基準等との関係性を整理するとともに、メンバー間で消費者安全のための規格・基準設定の仕組を共有する。

2. 西日本支部

テーマ: 古着店頭回収システムの標準化

<テーマ選定の経緯>

海外で売れ残った衣料品が大量に焼却処分されたことが批判を受け、SDGs に対する気運の高まりと相まって、環境省、経済産業省、消費者庁が横断的にサステナブルファッションの推進に向けて取り組みを強化する動きがある。また、民間レベルでも個々に古着回収に取り組むなど徐々にサステナブルファッションの関心も高まってきており、2021 年 8 月に正会員 21 社、賛助会員 33 社からなるジャパンサステナブルファッションアライアンス(JSFA)が設立され、業界を挙げた取組が始まった。NACS としても、このような社会課題に取り組む価値はあると判断した。

<調査概要>

2022 年度は、古着店頭回収システムの標準化を目標に、フィールドワーク、公開講座、施設見学会を通じ、標準化のゴールを探索することした。

(1) 西日本支部 繊維製品研究会とコラボし、公開講座を実施

「再生ポリエステルから服から服を作るしくみを学ぼう!」

講師 株式会社 JEPLAN (旧社名:日本環境設計(株)) 取締役 執行役員会長 岩元 美智彦氏(2) フィールドワーク

①さくらや「学校制服のリユースサービス」

- ②徳島県立那賀高等学校「服活」
- ③徳島県上勝町「ゼロ・ウェイストセンター」
- (3) 店頭回収方法の調査
 - ①ゆめタウン高松
 - ②ヒューマンウーマン・TSUNAGU 衣類回収キャンペーン
 - ③オンワード・グリーンキャンペーン
 - ④大丸松坂屋 (ECOFF リサイクルキャンペーン)
 - ⑤ユニクロ (店頭回収ボックス常設)
 - ⑥スポーツデポ (店頭回収ボックス常設)
- (4) 事業者へのヒアリング (大丸松坂屋)

<結論>

今回設定した「古着回収システムの標準化」についての必要性は、充分認識したが、具体的提案までには至らない。それ以外にも課題は多くサプライチェーン全体で考える必要がある。また、環境設計ガイドライン策定に見られるように、製品設計の標準化も視野に検討する必要がある。

<今後の方針>

- ・川上・川中・川下企業、JSFA、日本化繊協会ヘヒアリング調査
- ・ 自治体の古着回収について調査

3. 中国支部

テーマ:固定電話の防犯機能の標準化

<テーマ選定の経緯>

金融機関等では警察と連携して特殊詐欺の未然防止活動に取り組み、特殊詐欺の犯人との最初の接点のほとんどが固定電話となっていることから、警察と連携して特殊詐欺未然防止対策に効果のある防犯機能付固定電話の設置を PR している。しかし、未だに高齢者を中心に特殊詐欺の被害が発生している状況を踏まえ、「固定電話の防犯機能の標準化」をテーマに選定し、特殊詐欺被害を減らして安心・安全な社会を実現したいと考えた。

<調査概要>

- (1)特殊詐欺の被害状況について
- (2)防犯機能付固定電話の機能について
- (3)防犯機能付固定電話の普及に向けた取組
 - ①警察の取組(広島県警)
 - ②自治体の取組

- ③通信業者の取組
- ④家電メーカーの取組
- (4)固定電話外付け防犯機能装置の製品比較
 - ①トビラフォン
 - ②振込め詐欺見張隊新 117
 - ③録太郎
 - ④録音チュー
 - ⑤撃退っち

※録太郎を無料貸出している自治体へのヒアリング

- (5)通信業者の防犯機能サービス比較
 - (1)NTT
 - ②KDDI

<結論>

- ①特殊詐欺の犯行の最初に用いられたツールは、電話が大半を占めていることから、特殊詐欺被害 未然防止対策として必要である。
- ②特殊詐欺の犯人グループが固定電話に電話を掛けてきても、警告メッセージ等の防犯機能により シャットアウトすることが可能となり、特殊詐欺被害の減少につながる効果がある。

<今後の方針>

- (1) 防犯機能のない固定電話への外付け防犯機能装置や通信業者の防犯機能サービスでの防犯機能の標準化
 - ①NACS 中国支部会員や地域包括支援センターが支援する高齢者等を対象に、外付け防犯機能装置の中で自動録音機能があり価格も安い「録音チュー」にてモニター調査・分析を行う。
 - ②広島県の各自治体や広島県警察本部に対して「外付け防犯機能装置の無償配布」を提案する。
 - ③「外付け防犯機能装置の無償配布」による広島県内の特殊詐欺被害防止効果を検証する。
- (2)高齢者でも使いやすくする防犯機能付固定電話の標準化
- (3)「固定電話の防犯機能の標準化」に向けたソフト面の整備、改善
 - ・業界関係者との情報交換等により、標準化の実現に取り組む。

Ⅲ、その他

1. 内部勉強会

テーマ: マスク JIS 日本産業規格制定と適合審査について

講師: 一般社団法人 日本衛生材料工業連合会・全国マスク工業会 専務理事 髙橋紳哉氏

日 時: 2022年6月27日(月)19時~20時

開催方法 : オンライン

対 象:標準化委員会、標準化推進リーダー、標準化を考える会

参加者: 25名

内訳(東北支部1名、東日本支部9名、中部支部1名、西日本支部5名、中国支部3

名、九州支部4名、標準化を考える会2名)

※(一社)日本衛生材料工業連合会はNACSの賛助会員である。

2. 標準化啓発動画の作成

タイトル: あなたの知らない標準化の世界 ~標準化って何だろう?~

長 さ:約10分

目的・狙い : YouTube の NACS 公式チャンネルに動画を掲載し、標準化啓発のために NACS 会員

が活用することによって、より多くの人に標準化を知ってもらう機会をつくる。

動画の原版であるパワーポイント版を同時に作成し、講座開催時にパワーポイント版

を使用することも出来るようにする。

動画掲載 URL: https://www.youtube.com/watch?v=AaOAEFasgd4&t=25s

以上